

害反応

アセタゾラミド（ダイアモックス®）による急性肺水腫

Prescrire Int. 2025 Vol.34. No.270 Page134 の記事を基に本誌で翻訳、補足

白内障や緑内障術後の死亡あり

2024年、スペインの研究チームが、アセタゾラミド（ダイアモックス®）に起因する肺水腫を調査したが、この薬剤は利尿剤かつ炭酸脱水酵素阻害剤の性質を持つものであり、主に眼圧を下げるために使われる

のうち3例は白内障手術後、1例は緑内障手術後の発生である。4例とも、剖検により肺水腫の存在が確認された。（アセタゾラミドと害反応との関連について）想定されるメカニズムは、急性肺過敏症反応（アレルギー反応）であり、アセタゾラミドのスルホンアミド化学